

アカマダラ

Araschnia levana

タテハチョウ科



アカマダラ（夏型）

名前の由来

春型の翅が黒地に赤の斑（まだら）模様であることに由来する。漢字名：赤斑

特定種

該当なし。

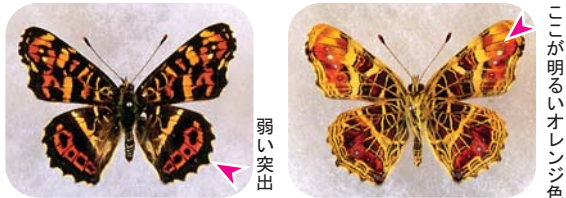
形態的特徴

春型と夏型で全く模様の異なる。大きさはシジミチョウ程。春型の翅表は黒と橙のまだら模様を示すが、夏型では表面の地色は黒褐色で中央に太い白帯をそなえる。両季節型ともメスはオスに比べてやや大型で、翅形は丸みが強い。夏型ではメスの白帯はオスより一般に広く、その他の斑紋もより顕著である。

類似種と見分け方

サカハチチョウ。

サカハチチョウははるかに大型で後羽外縁中央部の突出は弱く、裏面の地色は明るくアカマダラのように暗色をおびない。また夏型では前翅にある上の白い斜めの帯は、翅表において前縁に達せず、下の白帯はこの帯と平行でない。アカマダラでは2つの帯が平行で（ほとんど）つながらない。



サカハチチョウ。春型、オス（左が表、右がウラ）



サカハチチョウ。春型、オス（左が表、右がウラ）



アカマダラ。春型、表（左がオス、右がメス）



アカマダラ。春型、ウラ（左がオス、右がメス）



アカマダラ。夏型、表（左がオス、右がメス）



アカマダラ。夏型、ウラ（左がオス、右がメス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵 期			■		■	■						
幼 虫 期			■	■	■	■						
蛹 期	■			■		■	■	■	■	■	■	■
成 虫 期		■	■	■	■	■						

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ

生育環境・分布

平地から低山地の林道沿いや林間の小草原など。

分布：国外分布は、サハリン、朝鮮半島、中国からヨーロッパにかけてのユーラシア大陸北部。国内分布は、北海道

のみ。北海道内分布は、全域。

十勝地方では、平野部から山間部まで普通に見られ、数も多い。

繁殖生態・寿命

年2～3回発生。成虫は4月下旬～8月、7月～8月、年により9月に出現。越冬態は蛹。

母蝶は食草群落上でこきざみにはばたきながら、入念に産卵部位を捜す。産卵部位を決めた母蝶は葉裏に止まり、時折腹部を小刻みに震わせながら、ゆっくりとしたペースで5～10分間かけて、10個前後の卵を重ね合わせて卵柱をつ

くり、それを1箇所3～5本産み付ける。

幼虫は群生し、若齢時は吐糸で葉をつづり、簡単な巣をつくる。齢を重ねるにつれ造巢性は薄れ、葉の裏に群がって静止するようになる。幼虫の大きさのわりには摂食量が多く、しばしば食草を丸坊主にする。蛹化は食草や周囲の枯草などで行われる。寿命：不明。

他生物との関わり

*幼虫はホソバイラクサ、エゾイラクサ、ムカゴイラクサを食草とする。

*成虫は春型がセイヨウタンポポで夏型でマルバエゾニュー、ヒヨドリバナ、エゾゴマナでの吸蜜の記録がある。

*動物の糞を吸汁する。

*天敵としてヒメバチおよび寄生蝇の一種が知られる。幼虫がサンガメの一種に捕食されたのが観察されている。卵から孵化した時や若齢幼虫のときかなりの死亡率であるが、その原因は不明である。おそらくサンガメなどによって被害を受けるものと思われる。

幼虫の食性（食草）

ホソバイラクサ、エゾイラクサ、ムカゴイラクサ。



エゾイラクサ。アカマダラ幼虫の食草

興味深い話

■日本で一番小さなタテハチョウである。

■春型と夏型で全く模様の異なり、季節的変異の最も顕著な1例として世界的に知られる。

■サカハチチョウとアカマダラはまたその春型と夏型を実際学者でさえ最初のうちは別種として取り扱うほどであった。このような現象を「季節的多型(きせつてきたけい)」という。和名がサカハチチョウが両種の夏型の黒地に逆八の字の模様の特徴から名づけられたのに対し、アカマダラは両種の春型の橙斑(赤斑)と黒斑のまだら模様の特徴から名づけられた。春に出現するのがアカマダラで夏に出現するのがサカハチチョウならとても分かり

やすいが、両種の同定には注意を要する。

■サカハチチョウとアカマダラの季節的多型は幼虫の成育時の日長が関係していることがわかっている。卵は食草のエゾイラクサなどの根元付近に1個ずつ積み重ねてヒモ状に産み付けられている。電灯を使って人工的に日長を長くしたり、ダンボール箱で覆って日長を短くして飼育すると春型や夏型、またはその中間型などいろいろな型が出現する。

■十勝地方のアイヌ語では、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

イラクサ科などの食草の自生地が必要。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類

参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990

「日本のチョウ」海野和男・青山潤三 小学館 1981

「原色昆虫大図鑑 I (蝶蛾編)」北隆館 1978

「北海道昆虫ガイド」北海道昆虫同好会 北海道教育社 1984

「学研生物図鑑昆虫 I チョウ」監修 白水隆 学習研究社 1983

「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993

「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新

聞社 1986

「原色日本蝶類生態図鑑(Ⅲ)」福田晴夫・浜栄一 他 保育社 1983

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「知里真志保著作集 別巻 I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976